

決算説明会 質疑応答(要旨)

(2021年度)

Q1. 21年度の鋼材価格高騰の影響は。

A1. およそ140億円のマイナス影響です。影響が大きい事業は、ロジスティクス&コンストラクションとメカトロニクス部門です。

Q2. 全般的な事業環境は。受注横ばいの印象だが大きな変化はないか。

A2. プラスチック加工機械事業に減速感があります。油圧ショベルも中国で減速しています。エネルギー&ライフラインは、大型案件の受注減少を見込んでいます。しかしながら、一般的に機械需要は堅調に推移すると想定しています。

Q3. 21年度から22年度にかけての営業利益率改善の要因は。

A3. 資材費高騰等の影響を製品へ価格転嫁することも要因です。また、22年度はプラント事業の減益要因がありますが、23年度に向けて回復を見込んでいます。

Q4. 半導体関係の需要を中期的にどう見るか。

A4. 半導体業界全体は上昇トレンドと想定しています。当社の半導体関連事業は、イオン注入装置、真空ロボット、MCZ用超電導マグネット、クライオポンプなどがあり、継続的な伸長により売上増に寄与すると考えています。

Q5. 半導体関連事業の利益率は。全社平均と比べてどうか。

A5. 新機種 of 真空ロボットは、あまり利益率は高くありません。その他半導体関連機種は比較的好採算事業です。

以上